

平成26年 3 月期第 2 四半期 決算説明会資料

株式会社ユビキタス

代表取締役社長 佐野 勝大

© 2013 Ubiquitous Corporation. All rights reserved.

This presentation is for informational purposes only. Ubiquitous makes no warranties, express or implied, in this summary.



Ubiquitous

Agenda

- 代表取締役社長の交代について
- 第2四半期業績の概要
- 通期業績の修正について
- セグメント・製品分野別動向

代表取締役社長の 交代

代表取締役社長の交代について

■ 11日8日付で代表取締役社長を交代

- 任天堂収益依存から、他の組込み事業、新規事業による成長への転換期
- 当社を取り巻く環境の変化に迅速に対応、FY14以降の収益化達成の加速

業績の概要

第2四半期の概況

予想よりやや低調に推移

- 売上高は、ゲーム向けの減少を補い、前期比**8.6%増**
- ゲーム向け以外の売上高は前期比**68.1%増**
- 営業損失**199百万円**
(期首の業績予想から**109百万円増加**)
- 11/8 上期及び通期の業績予想を修正

第2四半期の概況

セグメント・分野別概況

- 組込みソフトウェア事業
 - ・ネットワーク分野 : 無線LAN、DLNA、ECHONET Liteなど堅調
大型顧客案件の完了でまとまったロイヤルティ獲得
 - ・データベース分野 : 車載機器、OA/産業機器向けライセンスが安定
低減傾向のデジタルカメラに代わる新規案件獲得
が課題
 - ・高速起動 : 車載を中心に複数の案件開発継続
製品化、収益化までは一定の時間を要する傾向
- サービス事業（新規事業） : HEMS補助金パッケージ製品の販売、大型集合住宅の電力関連受託案件による売上計上

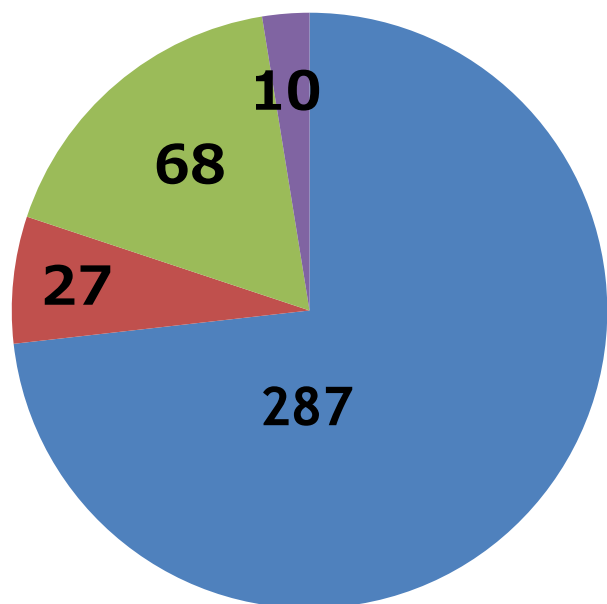
第2四半期業績の概要

(百万円未満切捨)

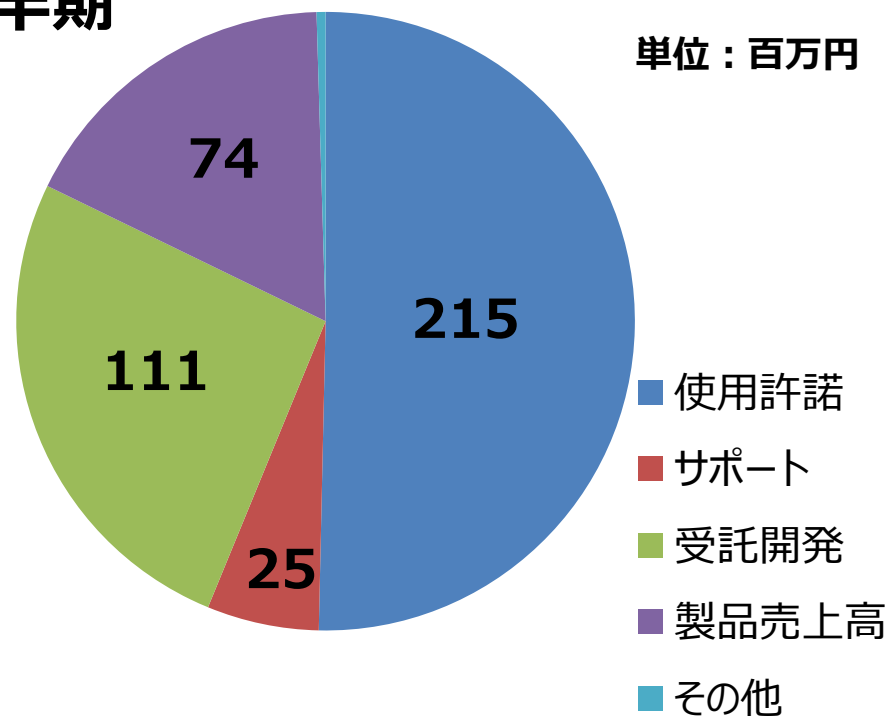
	前年同期 (百万円)	H26年 3 月期 第 2 四半期実績 (百万円)	前年同期比
売 上 高	394	428	8.6%
営 業 利 益	△57	△ 199	—
経 常 利 益	△49	△ 198	—
純 利 益	△99	△ 204	—
一 株 純 利 益 (円)	△11.62	△ 23.14	—

形態別売上高の内訳（前年同期比）

前年同期



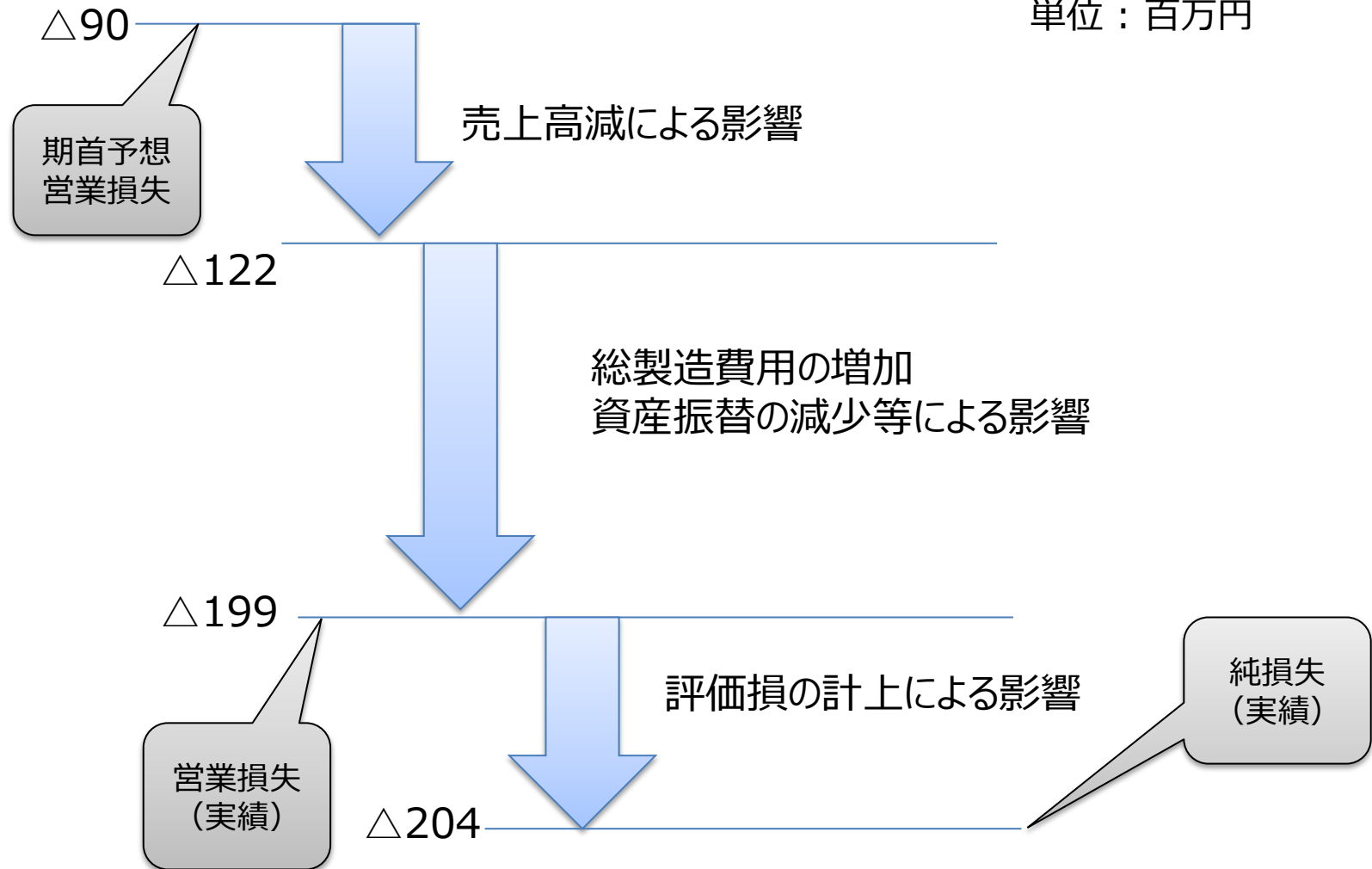
当四半期



- 売上の形態が変化
 - ・使用許諾売上高が減少
 - ・受託開発売上高、製品売上高が増加

期首業績予想とのかい離要因

単位：百万円



製品分野別の売上高進捗

	分野	前年同期 (百万円)	H26.3月期 第2四半期 (百万円)	増減率
組込み ソフトウェア 事業	ネットワーク	297	191	△35.5%
	データベース	66	57	△13.0%
	高速起動	20	52	160.0%
	小計	383	302	△21.3%
サービス 事業	サービスプラットフォーム	10	126	1064.1%
合計		394	428	8.6%

セグメント別売上及び利益

	組込み ソフトウェア 事業	サービス事業	合計
売上高 (百万円)	302	126	428
セグメント利益 (百万円)	△91	△107	△199

貸借対照表（資産の部）

（百万円未満切捨）

	平成25年9月30日 （当四半期末）	平成25年 3月31日 （前期末）	増減額
流動資産	1,443	1,536	△92
現金及び預金	691	767	△76
売掛金	206	242	△36
その他	545	526	19
固定資産	742	744	△1
資産合計	2,186	2,280	△94

貸借対照表（負債・純資産の部）

（百万円未満切捨）

	平成25年 9月30日 （当四半期末）	平成25年 3月31日 （前期末）	増減額
負債合計	169	114	55
流動負債	137	81	56
固定負債	32	32	0
純資産合計	2,016	2,166	△149
資本金	600	570	29
資本準備金	570	540	29
利益剰余金	827	1,032	△204
負債純資産合計	2,186	2,280	△94

通期の業績予想 修正

通期業績予想の修正 (H26.3月期)

	前回予想(A) (百万円)	今回修正(B) (百万円)	増減額(B-A)
売 上 高	930	930	0
営 業 利 益	△80	△ 250	△170
経 常 利 益	△80	△ 250	△170
純 利 益	△80	△ 260	△180
一 株 純 利 益 (円)	△9.15	△ 29.21	△20.06

(注) 10月1日を効力発生日として、普通株式数1株を100株に分割し、1単元を100株とする単元株制度を採用しております。

通期業績予想の修正の要因

- 期首業績予想と上期実績のかい離
(P10参照)
- 下期における研究開発、新規事業活動費用、
販売用ソフトウェア償却費の増加等

通期業績予想に対する進捗

	第2四半期実績 (百万円)	修正通期業績予 想 (百万円)	進捗率 (%)
売上高	428	930	46.1
営業利益	△199	△250	—
経常利益	△198	△250	—
純利益	△204	△260	—

セグメント及び分野別 動向と取り組み

組込みソフトウェア事業



ソフトウェアの研究・開発

NF Ubiquitous
Network Framework

ネットワーク関連

・機器と機器をつなぐための
ソフトウェア

DB Ubiquitous
DeviceSQL

データベース関連

・増大/複雑化するデータを効
率良く処理するための
ソフトウェア

QB Ubiquitous
QuickBoot

高速起動関連

・機器を高速に起動する
ためのソフトウェア

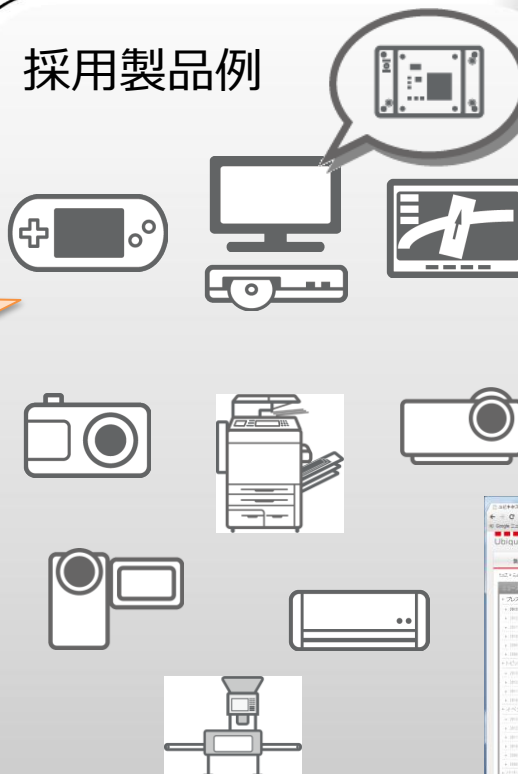
ソフトウェアの
提供

より高付加価値
高利益率へ

数量に応じた
ライセンス
収入等

機器メーカー(家電・車載機器等)
半導体・モジュールメーカー 殿

採用製品例



市場へ



※採用された製品のうち、お客様の了解を得た商品についての
採用事例はプレスリリース等で公表いたしております。

■ 事業全体

- 計画に対し順調に収益を計上
- Wi-Fi Direct, DLNA/DTCP-IPなど車載、デジタルカメラ分野で複数案件のクローズ、新規顧客獲得
- スマートエネルギー（ECHONET Lite）関連案件活発化

■ (株)村田製作所との協業進捗

- 共同提案による家電分野での新規案件を獲得
- 大型顧客案件の完了により、まとまった金額のロイヤルティを獲得

■ 今後に向けて

- スマホと車載機器の無線ディスプレイ技術のMiracastを製品化、拡販へ
- 車載、スマートエネルギー関連を中心に営業案件は引き続き好調に増加傾向 – 年度内での車載関連案件獲得目標
- (株)村田製作所、ルネサス エレクトロニクスとの協業をさらに推進

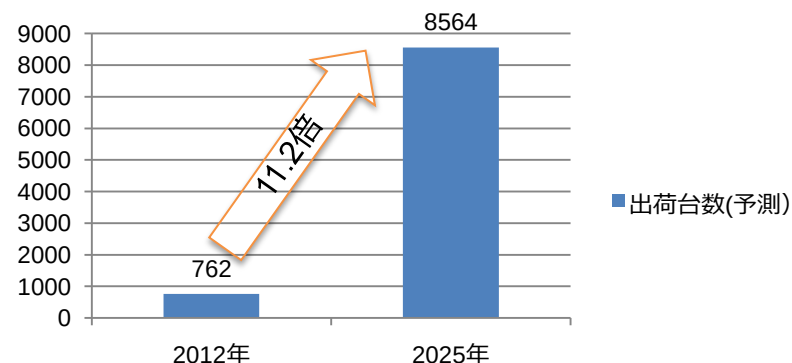


9/25発表パートナーアライアンスについて

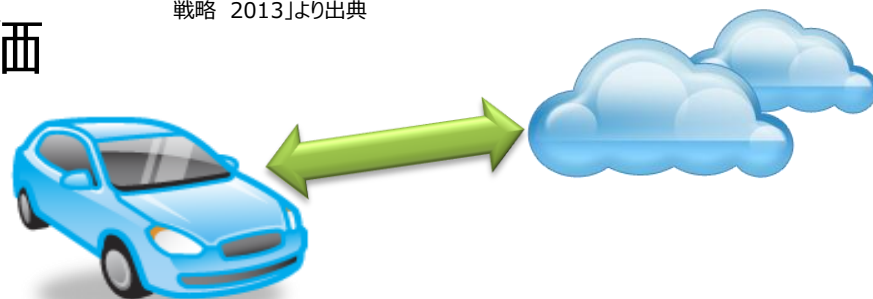
■ ルネサス エレクトロニクス、村田製作所と3社で車載情報機器の高速起動、高速ネットワーク接続の共同技術開発協業を発表

- 次世代のコネクティッドカーに向けた接続技術を検討
- ユビキタスの高速起動、無線LANも含めたネットワーク技術が評価

コネクティッドカーの世界市場出荷台数(予測)



*富士経済「コネクティッドカー関連市場の現状とテレマティクス戦略 2013」より出典



- デジカメ向けロイヤルティ：減速続く
 - 業界全体での減少傾向が継続
- OA機器、産業用機器でのロイヤルティ獲得
 - 業務用MFP、産業用機器が好調、新規案件も獲得
 - 既存車載関連での継続採用も順調
- 今後に向けて
 - 既採用分野、産業機器分野での新規顧客獲得により安定した売上確保



DeviceSQL採用製品
Pioneer社社様 DJシステム
XDJ-AERO

■ 車載機器（カーナビ） 関連中心に拡販中

- カーナビ各社の多数に浸透、開発進行中も
売上には時間がかかる傾向

■ パートナー拡充

- ルネサス エレクトロニクスとのパートナーシップの強化
 - 最新の車載向けプラットフォームへの早期対応と共同拡販体制の構築

■ 今後に向けて

- 進行中の案件を確実に量産へつなげる
- 車載向けCPUプラットフォームの対応拡大
- 海外ビジネスの開拓



QuickBoot採用製品
JVCケンウッド社様 彩速ナビ 2013夏モデル
NDV-Z700W

新セグメント： サービス事業

■ 電力見える化サービス

- 壁コンセントの計測や分電盤での測定に対応
- HEMSパックとして5月から一般販売開始
 - ハード販売の売上計上
 - HEMS補助金対象機器販売実施、9月で補助金終了
 - 引き続き、事業者向け関連の案件での引き合い

■ 電力関連案件で大型集合住宅の案件による売上計上

■ 今後に向けて

- パートナー含めた電力関連の事業者向け案件受注体制の強化
- ECHONET Lite(ホームコントロール) のクラウド連携対応



NAVI-ENE PLUG
ナビエネプラグ



NAVI-ENE MASTER
ナビエネマスター



新セグメント：サービス事業

- IoTデバイスクラウドサービスの技術開発が進行
- 車載関連、スマートエネルギー、気象関連などで実証実験で試験運用が開始
- 自動車メーカーなどの研究開発用途でプロジェクト受注



質疑応答概要

【Q1】

上期の売上未達3200万円は、どういう案件か？

【A1】

主に、高速起動（QuickBoot）の案件です。当社の想定していたペースでの収益獲得は実現しておりませんが、カーナビゲーション端末を中心に複数の新規案件を受注しており、売上の進捗としては長期化の傾向がありますが、複数年では成長するとみています。

【Q2】

カーナビメーカーの決算説明では、カーナビ市場の縮小傾向が見えるが、ユビキタス社としては、中期的には、カーナビ市場の縮小はある程度のところで止まり、開発案件も減らないとみているのか？

【A2】

カーナビの分野には、高位機種ナビゲーション端末とディスプレイオーディオ等複数のセグメントがあります。ディスプレイオーディオとは、オーディオの画面をタッチパネルで操作するもので、来年から米国でバックモニターの搭載義務付けられることもあり、増加し、特にアジア市場で増加するとみています。

現在の高位機種を主としたカーナビゲーション市場は、縮小傾向にありますが、今後は、ディスプレイオーディオであったり、今までカーナビゲーション端末のついていなかった普及車で中位機種、低位機種のカーナビゲーション端末が増えてくる傾向にあるため、これらを合わせた出荷台数は増えていくとみています。

【Q3】

総費用のところで、資産化するはずのものが、費用化してしまったということだが、α版からβ版に移行が想定よりかなり遅れているという理解でよいのか？

【A3】

従来、当社の開発スタイルとして比較的、研究開発期間を長く取る傾向にあります。また、サービス事業のクラウド型ソフトウェア技術は進化が非常に早く、研究開発中に新しい技術が発生して、これに対応するために期初の想定より研究開発期間が長期化したということがありました。今後は、開発スタイル等を見直し、スピードアップをした開発サイクルで対応していきます。

質疑応答概要

【Q4】

来期以降の資産計上するタイミングを事前に想定しておかないと、今回と同様の結果になると思うが、そのあたりはどうマネジメントしていくのか？

【A4】

そのあたりを含めて開発スタイル及びサイクル等の見直しを進めています。上期の経験を生かした開発体制がとれるとみています。

【Q5】

村田製作所との協業の部分で、今期どれくらいの売上があって、来期以降はどうなっていくと見ているのか？

【A5】

金額は、公表はしておりませんが、今期、ネットワークにおいては相当の比率を占め始めています。

一過性の売上があがるということは少なく、採用が続いている限りは積み上がっていくので、来期は、村田製作所様と協業させて頂いている案件で、今期以上の売上を獲得できるようになるとみています。

【Q6】

その場合、来期は、売上が大きく伸びて、トントン以上にもっていけるとみているのか？

【A6】

中期計画通り、来期はトントン又はそれに近い金額にもっていけると考えています。

当社は、まだまだ小規模で、技術を開発していく志向の会社であり、新たに開発投資を続けていくつもりですので、そのバランスをどこでとるか慎重に見極めながら、収支均衡をとって収益化してゆきたく考えております。



Ubiquitous

株式会社ユビキタス Ubiquitous Corporation

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-10-1 日土地西新宿ビル 20F TEL:03-5908-3451 FAX:03-5908-3452